

予 算 要 求 資 料

令和 7 年度 3 月補正予算

支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：企画調査費

事業名 無形民俗文化財伝承事業費補助金 (R8)

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

観光文化スポーツ部文化伝承課伝統文化係 電話番号：058-272-1111(内3147)

E-mail：c11148@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 11,500 千円 (現計予算額： 0 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
現計予算額	0	0	0	0	0	0	0	0	0
補正予算額	11,500	5,750	0	0	0	0	0	0	5,750
決定額	11,500	5,750	0	0	0	0	0	0	5,750

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

・無形民俗文化財の保存・振興を図るため、県域の団体(地歌舞伎、文楽・能、獅子芝居の3団体)が行う事業に対して支援を行う。

①飛騨・美濃歌舞伎大会 ②地歌舞伎伝承教室 ③岐阜県文楽・能大会 ④文楽・能伝承教室 ⑤岐阜県獅子芝居公演 ⑥獅子芝居伝承教室

・全国的にも地芝居がさかんな本県においても、過疎化や少子・高齢化に伴う担い手の不足は大きな課題となっている。コロナ禍が終了した令和5年度からは、活動が活発になり伝承教室の開催回数が増える一方、用具の新調や修理等に係る保存会の資金的な負担が増えている。実際に担い手不足等で活動が休止状態になっている保存会もあり、このままでは岐阜県が誇る地芝居の衰退につながりかねない。

(2) 事業内容

・無形民俗文化財、特に本県ゆかりの民俗芸能の保護・保存・振興のための事業に対して補助金を交付する。

・補助対象者は県域レベルで活動する民俗芸能の保存・振興団体とする。

・補助対象事業は、上記団体・市町村が行う民俗芸能の振興及び保存・伝承のための事業で、知事が適当と認めたものとする。

・大会は年1回、県内各地の団体が集まって開催されるもので、県民の認知度が高まっており、今後も開催できるように支援を継続する。

・伝承教室には、若手後継者育成を推進するための長期にわたる支援が必要。本事業によって、参加者が増加し、太夫・三味線師等、芸能を支える後継者も育ってきている。

・公演に必要な用具、衣装の新調・修理に対する補助を行う。

・継承が困難な場合には映像等の記録・保存ができるようその経費を補助する。

・補助額は定額。

（３）県負担・補助率の考え方

- ・各団体、事業ごとに加盟団体数、総事業費、収入状況等が異なるため、一律に補助金額を決定できない。よって、公平性の観点から以下のとおり補助額を決定。
- ・適切な民俗芸能の保護（後継者育成・公開、用具の新調・修理、記録保存）や振興に要する経費について、全額またはその一部を補助する（市町村負担金や会費などの特別な収入を差し引いた額）（定額補助）

（４）類似事業の有無

無

３ 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	11,500	大会補助、伝承教室補助
合計	11,500	

決定額の考え方

--

４ 参 考 事 項

（１）後年度の財政負担

後継者育成には長い年月が必要であるため、継続的な支援が必要である。

県単独補助金事業評価調書

☐ 新規要求事業

☒ 継続要求事業

(事業内容)

補助事業名	無形民俗文化財伝承事業
補助事業者（団体）	岐阜県地歌舞伎保存振興協議会及び大会実行委員会 岐阜県文楽・能保存振興協議会及び大会実行委員会 岐阜県獅子芝居協議会及び公演実行委員会
補助事業の概要	年1回開催される各大会への支援・後継者育成を推進するための伝承教室への支援
補助率・補助単価等	定額（千円） （内容） 地歌舞伎大会1,100、地歌舞伎伝承教室7,700、文楽・能大会900、文楽・能伝承教室1,000、獅子芝居公演300、獅子芝居伝承教室500 （理由） 適切な民俗芸能の保護（後継者育成、公開、記録保存）・振興に要する経費について、全額補助する前提で、市町村負担金や会費などの特別な収入を指し引いた額としている。
補助効果	伝承教室によって自前の太夫や三味線師が成長してきており、各保存会の伝承気運の高揚に大きく貢献している。大会は県域を対象とし、異なる圏域の保存会が一堂に会する唯一の大会として県民の間に認知され、観覧者数も多く、県外の観覧者もみられるようになった。
終期の設定	終期令和11年度 （理由） 県内の貴重な民俗芸能の保存・振興を図るため。後継者及び指導者の育成を図り、伝承し続けられる体制を形成する。

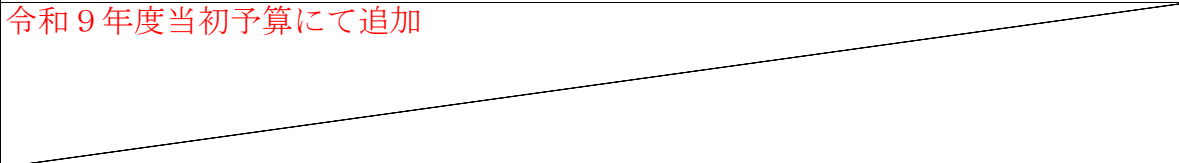
(事業目標)

・終期までに何をどのような状態にしたいのか 県内各地に脈々と受け継がれている貴重な民俗芸能を保存するため、大会や伝承教室等を通して、後継者及び指導者の育成を図る。
--

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (H17)	R5年度 実績	R6年度 実績	R7年度 目標	終期目標 (R11)	達成率
①伝承教室の総受講者数	975人	6,992人	7,954人	8,000人	延べ 40,000人	93%
※R7～R11年の伝承教室の総受講者40,000人						
補助金交付実績 (単位：千円)	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
	3,200千円	2,200千円	581千円	10,134千円	10,929千円	11,293千円

(これまでの取組内容と成果)

令和5年度	<p>昨年に引き続き県大会を開催した。伝承教室の活動も活発になり、参加者は前年度より約1,800人の増加がみられた。当年度から獅子芝居伝承教室の活動にも支援を行った。</p> <p>指標① 目標：8,000人 実績：6,992人 達成率：87 %</p>
令和6年度	<p>昨年に引き続き県大会を開催した。伝承教室の活動も活発に行われ、参加者は前年度より962人の増加がみられた。</p> <p>指標① 目標：8,000人 実績：7,954人 達成率：99 %</p>
令和7年度	<p>令和9年度当初予算にて追加</p>  <p>指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %</p>

(事業の評価)

<p>・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)</p> <p>3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</p>	
(評価) 3	<p>岐阜県は全国有数の地歌舞伎保存団体数を有している他、文楽・能や獅子芝居の公演活動も活発に行われており、事業の必要性は大きい。</p>
<p>・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)</p> <p>3：期待以上の成果あり(単年度目標100%達成かつ他に特筆できる要素あり)</p> <p>2：期待どおりの成果あり(単年度目標100%達成)</p> <p>1：期待どおりの成果が得られていない(単年度目標50～100%)</p> <p>0：ほとんど成果が得られていない(単年度目標50%未満)</p>	
(評価) 2	<p>伝承教室の活動が活発になり、特に令和6年度の伝承教室の参加者は前年度より962人の増加がみられた。</p>
<p>・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか)</p> <p>2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</p>	
(評価) 2	<p>伝承教室や大会への必要経費について、保存振興団体で検討し、伝承教室に係る経費に重点を置くなどの確認をした。</p>

(今後の課題)

<p>・事業が直面する課題や改善が必要な事項</p> <p>活動が活発になり伝承教室の開催回数が増える一方、保存会の資金的な負担が増えていく。過疎化や少子高齢化に伴う地歌舞伎の担い手不足が大きな課題である。大切な伝統芸能等が途絶えてしまわぬよう、継続した支援が必要。</p>

(次年度の方向性)

<p>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか</p> <p>後継者育成には非常に長い年月が必要であるため、大会や伝承教室等などの伝承事業は絶え間なく続ける必要がある。よって、本事業は継続していく必要がある。</p>
--